

令和6年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
キックオフミーティング 資料

『 唐津市版地域循環共生圏の実現 』

多様な主体が積極的に連携・協力し
自然資本と調和した
多様な”ビジネス”が創出/共創される街づくり

活動団体の活動地域：佐賀県唐津市

活動団体名：唐津市

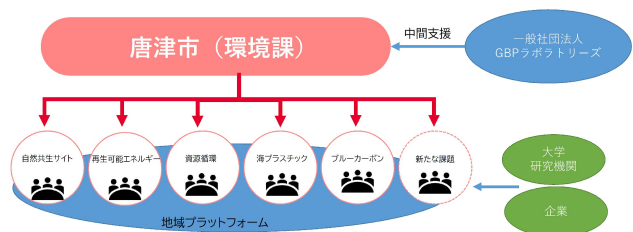
中間支援主体名：GBPラボラトリーズ

活動団体と地域の紹介

活動団体の紹介 唐津市

唐津市環境課では、令和5年3月に「第2次唐津市環境基本計画」の中間目標年次となったため、関連する計画や法令が改正され、社会情勢などが変化したことに対応するための見直しを行いました。

本計画で、本市の美しい景観資源をはじめ、豊かな農水産物や再生可能エネルギー資源に恵まれた地域資源を活かし、これらを産業・観光や防災などに活かし、経済を循環させることで、「**唐津市版地域循環共生圏**」の実現を目指した各種施策を展開しております。



本事業において唐津市環境課カーボンニュートラル推進係が中心となり、各課題解決を目指す地域プラットフォームを構築する。

庁内の連携について横断会議体の「唐津市ゼロカーボンシティ 庁内推進会議」を設立している。

活動地域の紹介 唐津市

佐賀県 唐津市について 人口:114,780人(2024.5時点) 自治体職員数:1335人(R5)

唐津市は、佐賀県の北西に位置し玄界灘に面する市であり、国の特別名勝であり日本3大松原の一つに数えられる「虹の松原」に代表される美しく豊かな自然に育まれた風光明媚(ふうこうめいび)な景観を有するとともに、国の重要無形民俗文化財であり平成29年1月にユネスコ無形文化遺産に登録された「唐津くんちの曳山行事」など、自然と歴史、文化が織りなす街となります。

【地震が少ない】直下型地震を引き起こす活断層が確認されておらず、過去の文献などでも大きな被害をもたらした地震が報告されてなく、BCP(事業継続計画)対策の候補地として検討されることが多いです。

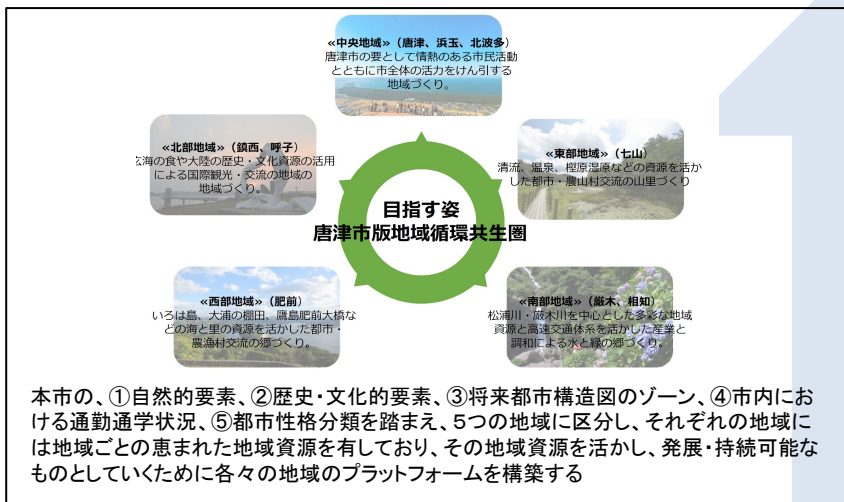
【環境系の動き】 R2唐津市版地域循環共生圏の策定
R5ゼロカーボンシティ宣言、R6カーボンニュートラル推進係新設、カーボンニュートラルチャレンジ補助事業

活動計画(概要)

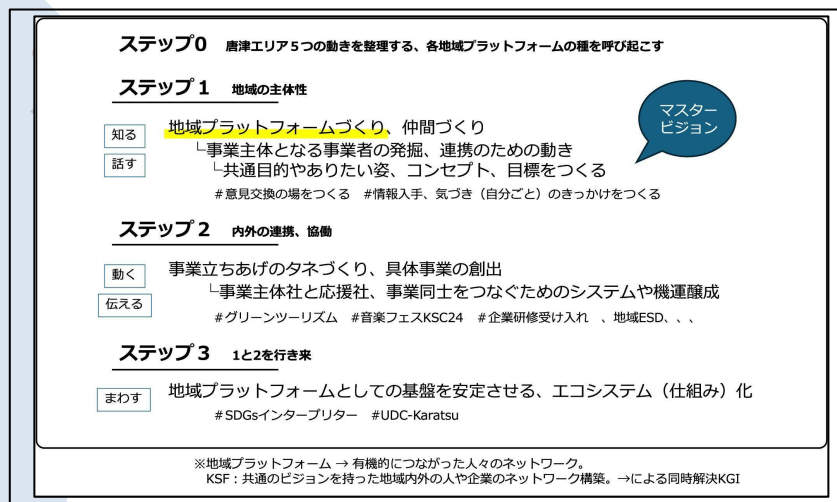
地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域内のプラットフォームの活性化と市域内外の企業や研究機関等との連携を強化。
地域ごとの特性を活かした新たな取組が創造されていくエコシステムを構築し、外部環境の変化に対応しながら地域が発展していく持続可能な社会を実現する。

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み



ローカルSDGs事業として取り組む内容



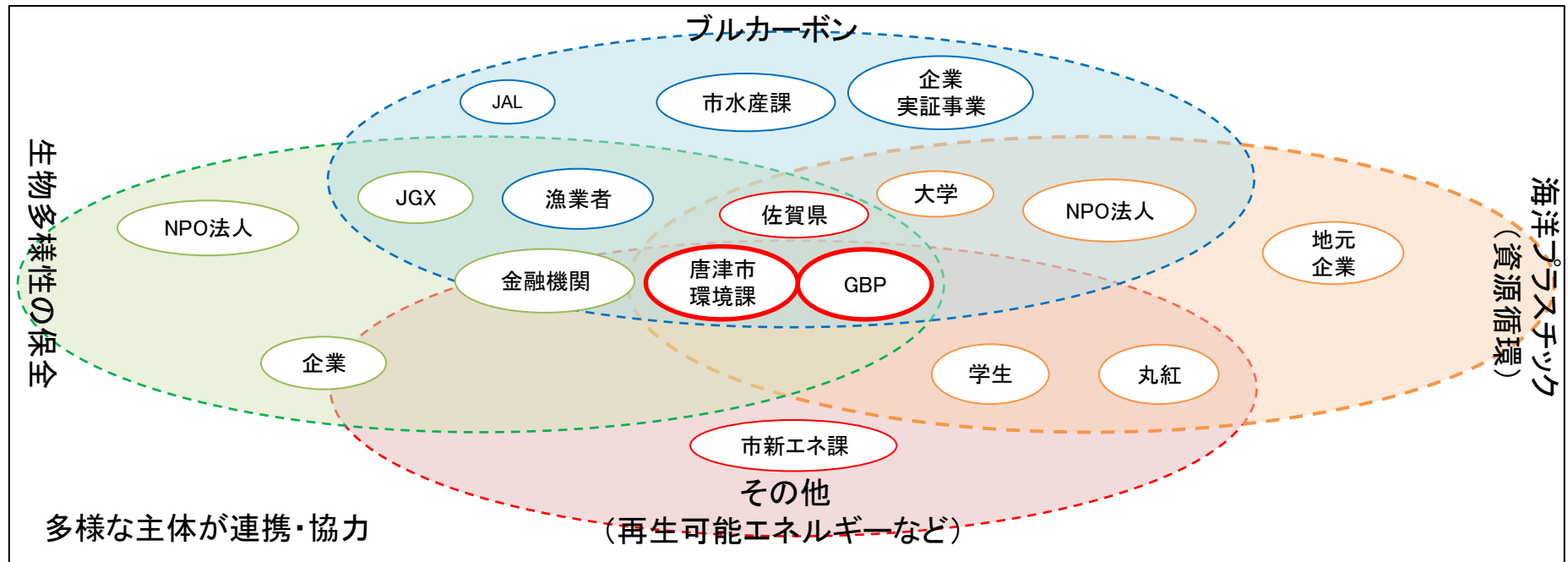
地域の現状

【資源】自然資源は自然環境保全地域特別地区となる檜原湿原や国定公園、自然公園などの良好な景観・自然資源や、唐津城、名護屋城、唐津くんちといった伝統的な人文資源が継承されている。自治体としてはR5ゼロカーボンシティ宣言やR6新設のカーボンニュートラル推進係の立ち上げなど共生圏の構築に向けて力を入れはじめている。民間の動きでは自然と触れ合う森海のアクティビティや海岸清掃などが活発。

【課題】事前環境に近い現場では地域の人たちの自然への関わりが変化しておりバランスを保ちにくい状態になっている。役所内では地域の目指すべき姿に対して、担当者、所属部長の熱量や知識に差がある。本事業を通じて、担当者(市及び地域の)に依存せず地域のプラットフォームをエコシステム化していくため、各々が自分事としてとらえる視点を持てるように巻き込んでいく事、育成の土壌をつくるのが理想だが、チームとして長く動くことが難しい自治体としては長年の課題となっている。

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



各分野において活動している人材を各地域プラットフォームのステークホルダーとして抽出・発掘し、区分を超えた交流を行える中核的な人材となるための意識醸成や育成を本事業を通して行っていく。

市域における活動それぞれの動き(ドット)を繋ぎ、継続した取り組みや経済性を伴う事業化を目指すため、各活動をサポートするコーディネーターや専門的な知見・知識を有する人材の確保、活動資金の流れが課題と捉えていおり、全体を見渡しサポートする中間支援役をプラットフォームの中から生み出したい。

また、未だ地域住民や企業において環境に対する意識が自分ごとにまで至っていない、環境問題を事業活動や暮らしにどう重ねていったらいいのかわからない、という課題に対して基礎情報への接点を増やしたり他者と意見を交わす場の創出など行動変容に向けた多面的アプローチが必要。

ローカルSDGs事業の詳細

地域プラットフォーム(PF内のメンバーやコアメンバー)で生み出そうとしているローカルSDGs事業の詳細

唐津市(組織横断)が中心となり、市内外の多様な主体が連携・協力し、唐津市の地域課題に対して、自然資本と調和した多様な“ビジネス”が創出/共創される「ローカルSDGs事業」が生まれ育み続ける街づくりを実現する。

本事業をとおして、企業や研究機関が「新たな技術・サービス・取組み」を「共創、仮説検証、実装」するための支援・受け入れ体制を自治体として構築。環境・社会・経済課題の解決を目指した「唐津モデル」を発信し続け、ローカルSDGs実践における人気エリアとして認知創出を図り市域および近隣エリアの活性化につなげる。

唐津から環境・社会・経済課題の解決を目指す



3か年状態目標

2026年度末の状態目標

「唐津市を中心に近隣エリアの PoC、PoV、PoBを促進。唐津の街が新たな取組創造における窓口に」
市内外の多様な主体と積極的に連携・協力することによる連携体の創出し、自然資本と調和した多様な “ビジネス” が創出/共創される街づくり

本事業に関連する実証実験やプロジェクトが生まれ、事業を開始。
(ブルーカーボン・生物多様性の保全・海洋プラスチックなど)

2025年度末の状態目標

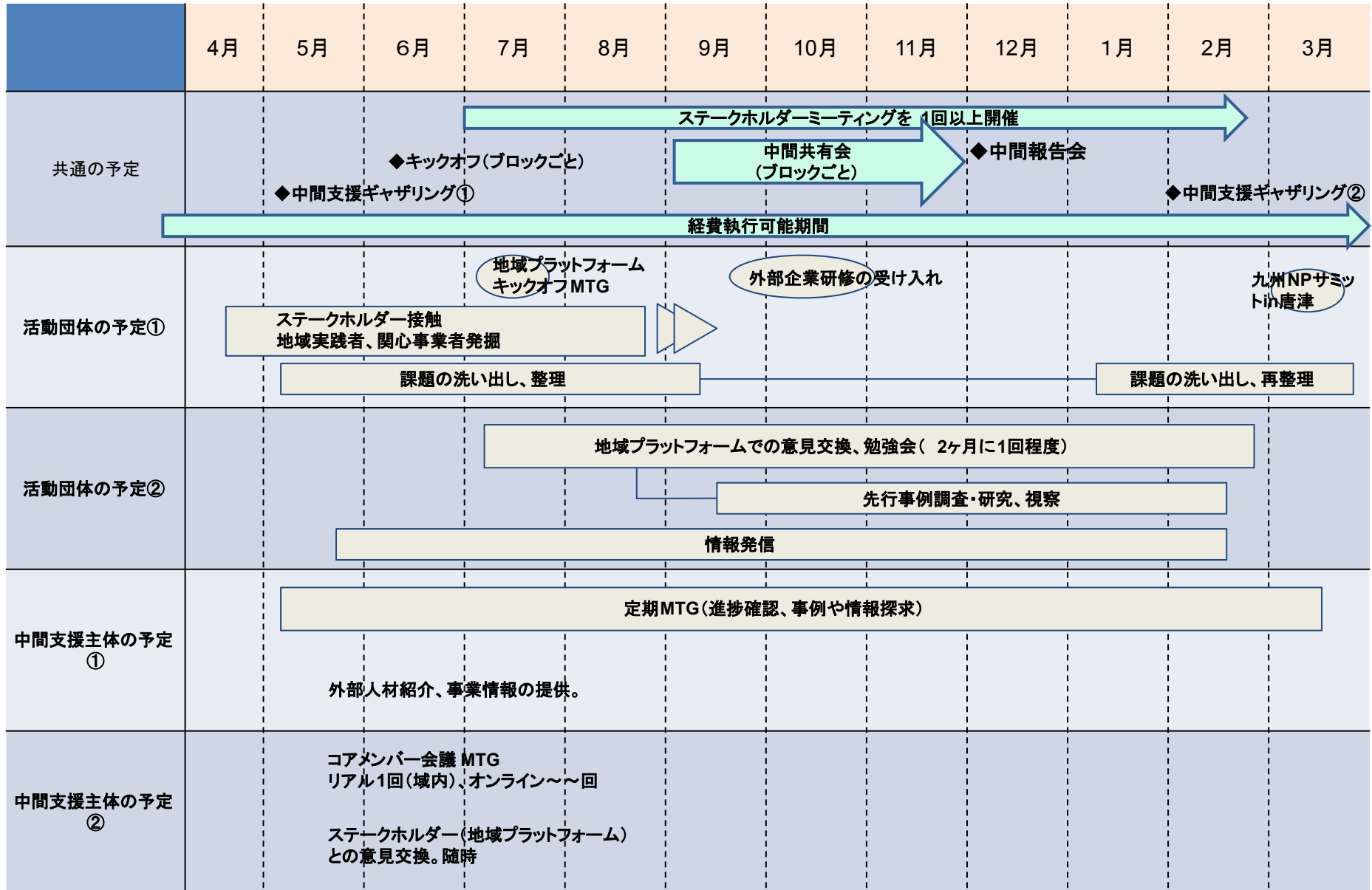
構築した地域プラットフォームにおいて、本格的な実証実験やプロジェクトの創出に向けた情報収集・マーケティング調査及び必要となる専門家や企業の誘致を行う。
また、事業に必要な資金について、様々な観点から持続可能な形を模索する。

2024年度末の状態目標

市内外の多様な主体による唐津市をフィールドとした課題などのインプット・アウトプットを行い共通認識のもと地域プラットフォームを構築する。
また、現状において不足している情報・人材などを洗い出し、解決策を検討する。

地域プラットフォーム構築に向けて、本市において生物多様性の保全をはじめとしたネイチャーポジティブの実現を目指し、九州各地の関係者を招き(仮称)「九州ネイチャーポジティブ(NP)サミットin唐津」を開催し、市内外へ唐津市の取組みを発信する。

活動計画



中間支援主体より

中間支援主体の紹介 GBPラボラトリーズ

地域と連携した「グリーンビジネス実践者」と共に
GX/SXが実装された、新しい地域創生モデルを構築。
地域と地球と未来を繋いでいきます

活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

<仲間を探す>

今後は区分を超えた交流を行える中核人材の輩出などで、情報交換や連携を強めていくことが必要。最大のネックである活動団体の人的リソース不足、庁内連携をサポートできる民間の動きが必要。本事業や「地域活性化企業人、企業版ふるさと納税、地域おこし協力隊」などの活用もそのひとつ。

<地域のビジョンを描く>

市が描いたビジョンの理由や地球規模で起こっている環境変化が、未だ地域住民や企業の自分ごとにまで至っていない。まずは現状の把握と実感、活動社同士の共通ビジョンに対する視線合わせが必要。

<体制を整える>

現在起こっている動き(ドット)を繋ぎ、継続した取り組みや経済性を伴う事業化を目指すステージに移行するタイミングと見るが、まだ踏み込めていない。地域事業者の参画意識・意義もまだ醸成不足。自治体としてどう旗を「魅せる」か「ナッジ」を作るかがポイント。

<事業を考える・生み出す>

プラットフォーム内で生まれた事業アイデアの実装や地域内の経済循環をどう生み出すかが課題。ビジョンを体現し牽引するリーダー、コーディネータ、プロデューサー人材の発掘、育成、伴走が必要。

俯瞰した位置から事業の種を見つけ、
連環への道筋を立て、活動団体と共に現場で動く